

## ながさきいせき 2. 長崎遺跡

所在地：坂井市丸岡町長崎地係

調査原因：北陸新幹線建設事業

調査期間：平成 28 年 9 月 1 日

～平成 29 年 3 月 31 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：2,850 m<sup>2</sup>

時代：鎌倉・室町時代



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 長崎遺跡は坂井平野南東部にあり、兵庫川右岸の自然堤防上に立地します。調査区西側に所在する長崎称念寺は、正応 3 年 (1290) に伽藍が建立され、室町時代には時宗布教の中心道場とされました。また、太平記に「長崎城」として記載があり、南北朝時代には南朝方の武将新田義貞が拠点の 1 つとしていたと記されています。15 世紀に入り、朝倉氏が越前を治める時代に至るまで、城館や陣所として利用されていたようです。今回の調査は調査区を南北に分けて行い、称念寺との関連が考えられる遺構が見つかりました(第 1 図)。

**遺構** 遺構は古い方から、大きく第 1～3 段階の 3 つの時期に分かれます。

### 【第 1 段階】

北側調査区では南北方向の溝 (SD39) のほか、溝の下層から四角に掘られた木組みを伴う穴 (SK50) が検出できました。井戸は 2 基あり、南北方向に下層が 40 cm 程ずれていることが分かりました (写真 3)。これは地震の影響と考えられます。南側調査区では、調査区を東西に分断する堀があり、この堀は現在の称念寺の区画とも一致します (写真 9)。水は流れておらず、たまった状態であったと推測できます。また、南側調査区の南端部分では、次第に遺構の数が減り、最終的に沼地に変化します。この沼地が堀の役目も果たしていたと考えられます。

### 【第 2 段階】

南側調査区では、井戸を 14 基検出しました。方形の板の囲いの中に曲物を設置しているものや、2 m 以上の深さの桶を設置しているものなど、様々な形の井戸があります (第 2 図)。また、これらの井戸は全て下層が東西方向に 30 cm 程ずれており、第 1 段階での地震とは異なる地震の影響を受けたことが分かりました (写真 4)。一方で地震によるズレがない大型の井戸も 2 基あり、当時の人々が何度も井戸を掘り直していたことが分かります。

### 【第 3 段階】

調査区中央部で、幅約 3.5m の土塁 (土を盛り上げた防御施設) を検出しました。両側に溝を伴い、その南側には柵列があります。この土塁を含め、約 15m 間隔で幅約 1.5m の大型の溝が配置されており、大きく 5 つの区画に分かれます (写真 2)。

これは、称念寺に伴う一連の区画構造を示すと考えられ、1～5 区の区画によって、遺構

の様相が大きく異なります（第3図）。

（1区・2区）200基を超える多数の土坑、柱穴が見つかりました。柱穴は、礎石や柱根を残すものも複数存在し、多くの柱穴が近い場所に集中していました。ゴミ捨て場に使われた直径約1mの穴や、越前焼の甕を埋設している穴が存在することから（写真6）、生活の場として利用されつつも、複数回にわたる建物の建て直しが行われていたと考えられます。

（3区）建物跡が3棟見つかりました。SB2・4とSB3では主軸方向が異なり、建てられた時期の違いを示しています。溝の埋没後に掘られた木組みを伴う土坑からは15世紀代の遺物が出土し、組み合わせ式五輪塔が廃棄されていました（写真7）。

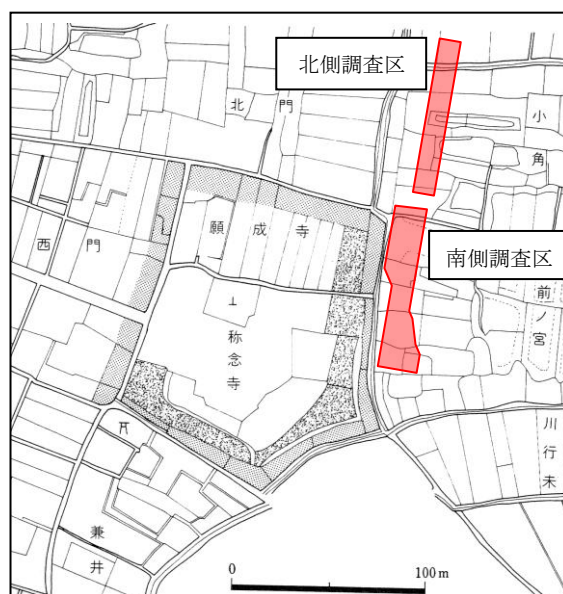
（4区）建物跡（SB5）では二重の雨落溝が確認できたほか、素掘り井戸や円形の水溜枡などが伴い、生活空間として使用されていたと考えられます。

（5区）堀が埋まった後に、柵を伴う溝や井戸が作られました。また、土坑（SK57）では、角柱状の石材を柱状に6か所据え付けた痕跡や石材自体が遺存していました。床面に焼土も確認できることから火を焚いた施設であったと推定できます（写真5）。

**遺物** 区画溝からは土師器片、陶磁器片、漆器碗などの木製品が出土しました（写真8）。出土遺物の年代は13～14世紀に集中しますが、15世紀の陶磁器片が上層から出土しています。1区のごみ捨て場からは、焼粘土塊や多数のかわらけ、越前焼片が出土しました。

**まとめ** 今回の調査で、長崎遺跡が遺跡の中心時期である13世紀から15世紀の間に、大きく2つの画期を持つことが分かりました。この画期は、2度の地震痕跡、また称念寺の活動と関係していることが想定されます。そして第3段階では、等間隔に大型の溝が配置され、区画ごとに異なる様相を見せることが判明しました。

（秋山綾子）



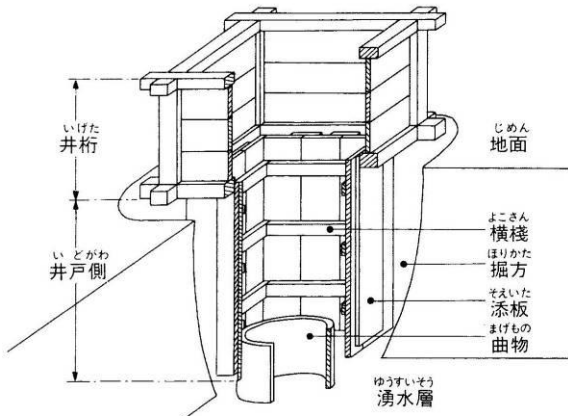
第1図 長崎城と調査区の位置



写真1 北側調査区全景



写真2 区画溝 (SD41～43)



第2図 井戸の構造



写真6 越前焼埋設土坑

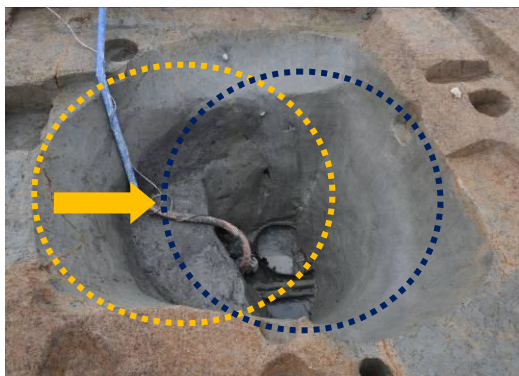


写真3 第1段階の井戸（南北ずれ）



写真7 木組みを伴う土坑

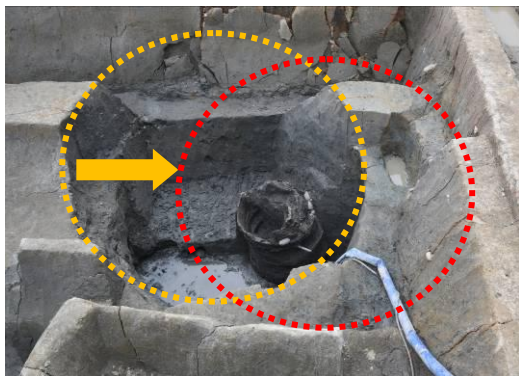


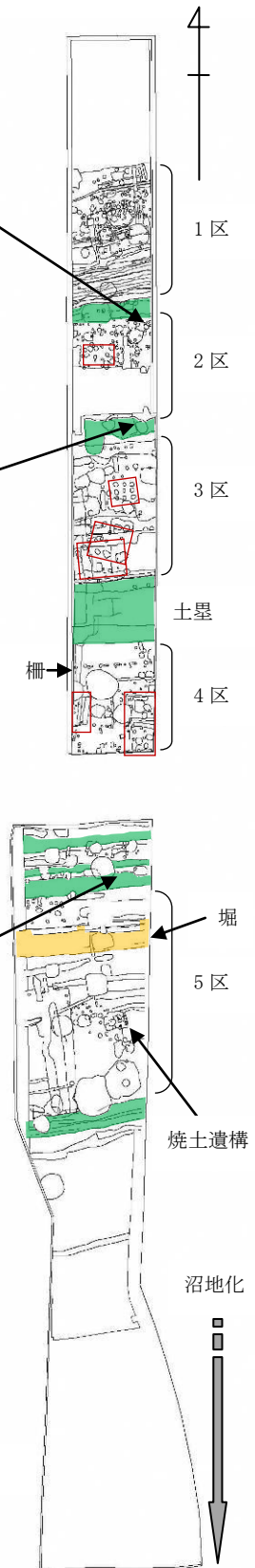
写真4 第2段階の井戸（東西ずれ）



写真8 漆器碗出土状況



写真5 焼土遺構 (SK57)



第3図 調査区略図

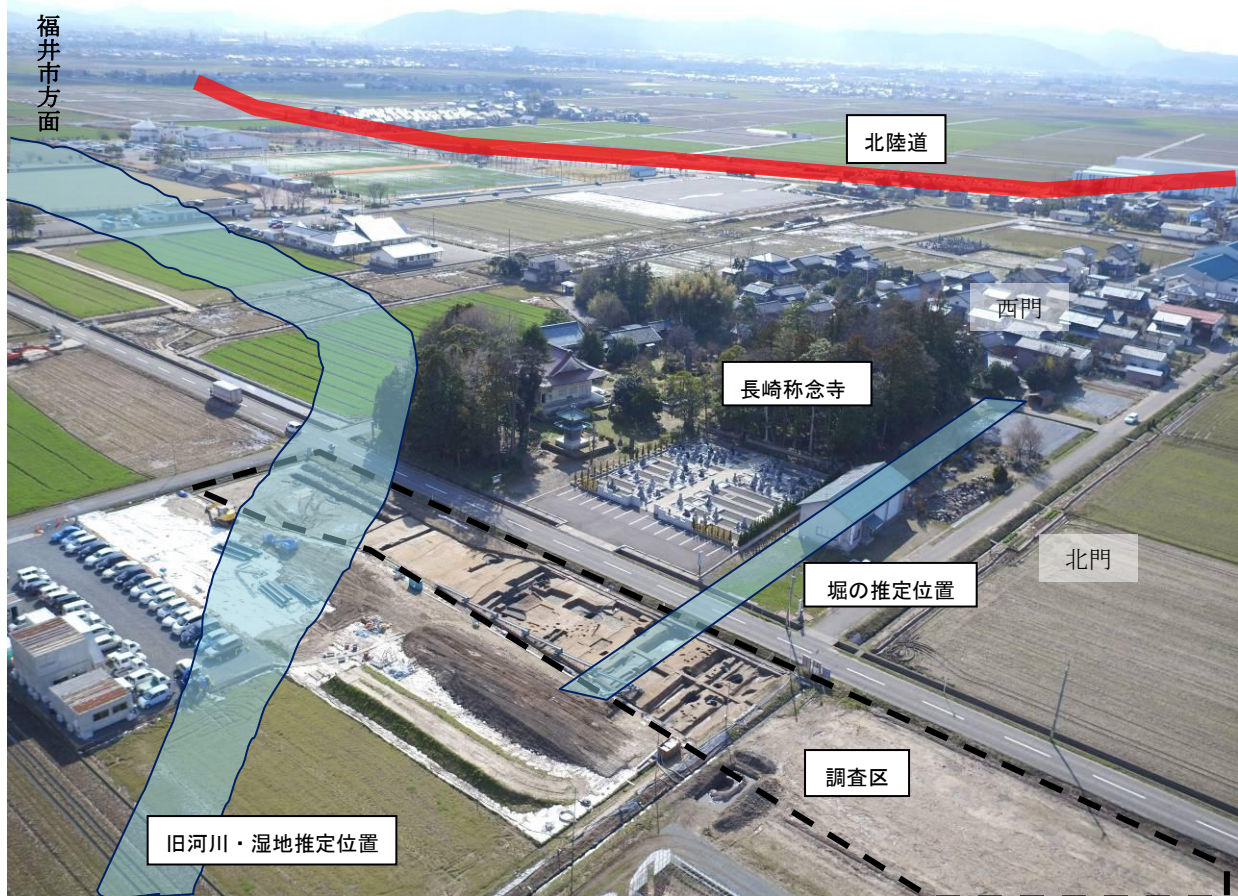


写真9 調査区と称念寺

表1 称念寺年表と文献に記録のある近隣の地震

西暦	称念寺年表	西暦	関連しそうな地震
721	泰澄大師により阿弥陀堂創建	863	越中・越後、震央不明
		976	山城・近江
		1096	畿内・東海道
		1185	近江・山城・大和(美濃)
1290	他阿真教により時宗となる。称念房・道性・仏眼3兄弟により、伽藍建立 道性は光明院西教寺を建て、「光明院の倉」とする 光明院は興福寺末寺となり、四条家領長崎庄を管理 このころから「光明院」と名乗っていた可能性 <b>南朝方の一拠点として利用される</b>	1317	京都
		1325	近江北部(柳ヶ瀬断層)、気比神宮倒壊
		1334・35	美濃・飛騨
1338	新田義貞自害	1350	京都
		1361	南海地震(畿内・土佐・阿波)
		1369～	京都(1369・1407・1425)
		1449	山城・大和
1458	將軍足利義政が称念寺並びに光明院を時宗布教の中心道場とする 寺領は近郷近在に56か所、称念寺諸塔頭領として28か所となる	1498	明応東海地震(東海・東山・畿内)
1465	後花園天皇より祈禱所の繪旨を受ける <b>一向一揆の陣所として利用される</b>	1520・56	紀伊・京都
1480・81	「長崎城責落」、「朝倉ハ長崎之道場二出陣云々」(「大乘院雜事記」)	1586	天正地震(畿内・東海・東山・北陸)
1585	丹羽長重が称念寺・西教寺に対して38石余の寺領を与え、 結城秀康にも引き継がれる	1639	越前、福井城破損
		1640	加賀
		1662	寛文地震(畿内・近江・若狭・美濃)
1775	約30棟の堂宇を有する大寺院		

遺跡の中心時期

遺跡で地震痕跡が確認できた地震